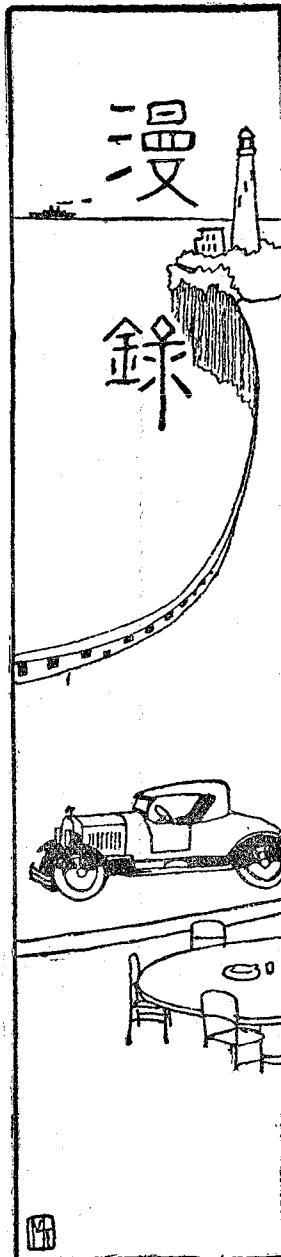


島重治君を送る

田中好



内務省土木局第一技術課長であつた島重治君が、曩日退官して大阪市土木部長の職に就いた、氏が第一技術課長として内務省に入ったのは憲か大正十三年だつたと記憶して

岡隆一郎氏に見出されて、他の連中よりは一足先きに勅任内務技師となつて、第一技術課長の要位を占めたのであつた。

當時君の榮進に就いては色々に取沙汰されたものだ、幸運兎も亦大阪府土木課長として其の要求者の一人だつたが、時の土木局長長

い連中は永年内務省の直轄工事にばかり没頭してゐたものが、日進月歩の民間事業やら公共團體の土木事業を監督することには到底不可能だ。迄非難したものだ、是等の風評やら非難のあつたことを君は知つてゐたかるないかは判らないが、君の在職三年に亘る勤務振りは夫等の風評乃至は非難を裏切つたかどうか。

人は君を幸運兒であると言つたが、君は明治三十年の東大工科の出身で同期生には前任者であつた池田圓男君があるばかりか、後任者の前川貫一君も既にその當時名古屋上木出張所長であつた位で夫れらに比する餘り幸運と言ふ程でもない、殊に氏が大學卒業後大阪の築港に従事したり六年間も朝鮮總督府の技師として殖民地生活をやつたばかりか、専門外に亘つて居る燈臺局長やら航路標識管理所長をやつた勞苦から勘定するご、勅任技師と爲つたことは當然過ぎる程當然なことで、譯の判らぬ運命論を以て評すべきではない、又假令長岡局長と同郷の關係があつたにしても、周旋人否な採用者であつた長岡長官が、例の人格者で

あつて、私情で公の人事を決するやうな吝嗇臭い人で無いここに依つて、評者の言ふことは何れも當つてゐない、そするこ内務省の直轄工事に従事して、朝から晩まで河の淵や港の岸に立つて現場の仕事をしてゐた君が、日進月歩の土木技術を監督したり地方技術官監督指導のこととに適任であつたかどうかの問題が残るだけだ。

第一技術課長としての君は、氣儘な若い技術官を無上に喜ばしむるやうな人氣取りをやらなかつた、が併しおれと言つて厳格一點張りの前課長池田君よりは取り附きが可いこと言ふので、部下の中間では評判は餘り悪くは無かつた。夫れこと言ふのも君が大阪築港や朝鮮で民間に接した経験のお陰で餘り官僚的技術家振らなかつた故であらう。君が内務省生へ抜きの官僚的技術官と異つて世俗にだけた技術官であつたことが、世間に頗る好評を博した所以である、併しおれが君の特長であり亦一面缺點であつたのだから、技術上の見地から議論を進めて行けば可い問題でも其の決論に達する迄に、四圍の空氣を懸念しつゝ解決點を見出さむこ

焦慮する氣配があつた。其の結果は世論に聽いた譯でもなく純技術に依つた譯でもない折衷論的解決に陥るのである。換言するこ圓轉骨脱式に技術上の問題を解決しようとする所に無理が起つて

來るのであつて、是が

君の缺點と言へば言ひ得る點であらう。かう

言へば或はお氣に障るかも知らないが、其の一例を擧げて見ること

大阪市高速度鐵道網決

定の會議のときでも、

大阪の中心から堺市に

向つて行く高速度鐵道

線は堺市に結び附けなければ意義のないこと爲るのは理

の當然であるのに、ときの鐵道省工務局長であつた某君

が、其の線路は南海鐵道に影響するこ言ふので途中で鐵道



網を打切る意見を出した、當時僕は其の意見に反対であつたから論争しようとしたが、其のとき島君はそうなれば此會議は潰れてしまつて各省を圓満に治めやうとする會議開催の目的を没却するこ言つて、遂に僕等の發言を中止するこに力めたやうなこ

島君は、理屈抜きで圓滑に事を選ばんこする君の性格の重發現である。併しながら其治の圓滑式が可いか悪いのか

君は、いま君が大阪市に入つて其の鐵道網を見、當時反對した某君が南海鐵道に居るこを思つたら、當時僕等の發言中止に奔走した君の妥協的な遣り方の價値が自ら判るであらう。

内務省の直轄工事に從事してゐる技術官は、其の仕事の

關係からして河川や港灣所在の田舎に於て十年に一回位東京に出て来る位なものだから社會の刺戟を受くることが妙い。夫ればかりでなく與へられた河川や港灣の仕事だけすれば役目が勤るのであつて技術能力を發揮する天地が限極されて居る、従つて永年直轄工事に從事した君が技術課長として手腕を彼は擧されたのも強ち無理ではない、併し君が四十四年朝鮮から歸つて内務技師となつて信濃川やら千曲川の改修工事に從事して河川改良工事を體験し、更に大正十一年大阪府土木課長となつて民間事業の監督やら、府經營土木事業の執行に當つたことは、内務省直轄工事にばかり終始した連中と違ふのである。、大阪府土木課長として在職纔に二年であつたが、大阪を中心としてゐる十放射道路二萬六百有餘間を幅十間乃至十五間に改良する計畫を樹て、二千七百七十餘萬圓の事業費で、昭和元年度以降十箇年間に執行することになつたのも、君の力の然らしき所である。従つて少壯時代に大阪築港工事に從事して苦んだ君が、更に河川工事を擔當し道路工事を計畫した其

の體驗からして見ても、君は技術家として實に立派なものだ、夫れを疑つたのは疑つた方に罪がある。

人事行政殊に地方土木主任官の配置に就ては非難が無かつたでもない、其の者の能力を赴任先の府縣の地位を斟酌せずに無闇に榮進せしめたものだ、併し夫れは在任して日が浅い爲に各府縣の技術官を餘り知らなかつた故であつて、之れを咎めるのは或は無理かも判らぬが、君の人事行政の遣り方に不平を抱いてゐる者やら餘り榮進せしめられて却つて困つてゐる者のあるのは事實だ、それはそれで茲に特筆して君に感謝せなければならぬことはあら、夫れは土木課長誼衡方針を改めたことだ、専門學校出身者を府縣の土木課長にする其の部下に工學士が行かなること、爲つて、地方の土木技術を發展せしむることが出来ないから、工學士でなければ土木課長に採用しないと言ふのは從來の誼衡方針であつたのだが、工學士でも實際詰らぬものがる、専門學校出身者でも工學士を凌駕するものがるる唯だ大學を出た言ふことに依つて有能の士を顧

みないのは、夫れこそ地方の土木技術を向上せしむる所以でないと言ふのが君の持論であつた、此持論の下に専門學校出身の技術家をさしく、土木課長に榮進せしめた、夫れが爲に是れ迄顧慮されなかつた幾百の若い技術官が闇から明るみへでも出たやうな氣になつて、勉強もし研究もするやうに爲つたのは全く君のお陰である、實際いまの世に官學や私學、大學や専門學校と言ふやうに人が一人前たらむが爲に踏んだ、唯だ夫れだけの一過程に立脚して人の手腕能力を評價することは全然間違つてゐる、其の間違つた遣り方が大學や官學を出た者の特典のやうに取扱はれてゐた舊弊を打破したことは、島君の大成功であつて、先に言つたやうに一部に不平を聞くやうな人事を敢てしたことがあつたにしても、唯だ此證衡方針の改革だけで島君を第一技術課長に据ゑた一大效績と言はねばならぬ、夫れは僕一人が言ふのではない、君の採つた此の方針に隨喜の涙を零して、君を敬慕してゐるものは天下五六百に止まらないであらう。

技術監督の方法に熟し、各府縣の事情やら主任官の手腕の程度を知り抜いた君は今後大に手腕を振ふ餘地を持つてゐた、又夫れを振はしめたかつたが遂に退官してしまつた、退官の原因を疑つてゐた僕は、學士會館で開いた君の送別會席上で始めて夫れを知ることが出來た、送別の挨拶は悲痛を極めてゐる、第一技術課長をしてた者が退官するには常に名成り功遂げての上であるのに、私獨りは夫れを裏切つて或る責任の爲め退官し二十年の古巣を捨て、新らたな生命を得る爲に大阪に行くのである、こ、言つた、長岡社會局長官はノウ／＼を連發されてゐたが、君の退官したのは或る責任感に動機してゐることが窺はれる、責任感——夫れは内務省のやつた信濃川大河津自在堰の破壊に關する責任に感じて退官したのである。

人も知るやうに天下の巨浸と言はれた信濃川を改良して水量を調節し、汎濫裏陵の患を除くことは、享保年代以來の懸案であつたが、明治から大正に亘つて夫れを解決し大河津の自在堰を造つて水量を調節するこ、爲つて地方民

を感じせしめたが、去年の六月になつて不幸にも第六號第七號のピーヤが沈下し次で第八號ピーヤが傾斜して折角の水量調節も不可能に歸してしまつた、其の破壩の原因は學術上の研究に俟たなければ判然しないさうであるが、設計の不備と夫れから工事の施行が不適當であつたのと、維持管理に就て周到の注意を缺いたと言はれてゐる、夫れの適否は後日行はるゝ研究で判明するのであつて今俄に斷定するのは早まつてゐるが、兎に角自在堰の設計を樹て其の工事を施行した島君が、今其の責任に鑑て自決したのである、或は當然であると言ふ人もあらうが、此局についた官吏々員の多くが相當の賞典に預かつたばかりでなく、信濃川沿川住民からは神のやうに崇められた、併し此重大任務に就いた島君は獨り賞典にも浴せず崇敬も受けないで、唯だ、其の責のみを負つて退官せなければならぬこと、爲つたのは、寔に氣の毒である、況んや破壩の原因が學術上議論があつて明かにされてゐる今日、自決したことここに同情せずには居られない、併しながら自在堰夫

れだけが信濃川改良工事の全部では無いから君の効績はまだ信濃川沿川に残されてゐる筈だ、君の自決したことは自在堰破壩原因の確められてゐない今日では、君の技術的失敗を決して物語るものでは無い、既に或る一部の人は堰の維持管理が十分でなかつた爲であつて、設計やら施工方法が悪かつた爲でないと言つてゐる位だ、君の技術的手腕に信頼してゐる僕等は其のことの眞實であることを希むと同時に、破壩の原因が學術上論究されて世に之を發表するに至つたならば、必ずや君の自決が餘り早かつたことを惜むに至るであらうと信じてゐる。

大阪は君にすれば第二の故郷みたいなものだ、府市を通じて約十年の難波生活は大阪の表裏を良く諒得せしめてゐる筈だ、内務省に來て眼病を病んだ君が禁酒しながらも、鳥取の料亭大和屋でメートルを擧げた、夫れも大阪の大和屋に因縁があつたのだと言はれる程、大阪の其の方面にも精通してゐる、いつぞや噂に上つた京都市に入つて吝嗇臭い市會議員を相手にするよりは餘程樂だ、が併し市には偉

い技術家が揃つてゐる、政治家と言はれた坂出君やら頭脳の綿密な岩田實君などは既に去つたにしても、岩田君にこをかけたやうな頭脳をもつて、我國土木技術界の第一人者今まで離されてゐる清水熙君やら、工事の實施に妙技を持つてゐる福留普喜君等がる、是等の人々は或る點に於て君の右に出る連中だ、是等の人を納得せしめて君の本領を發揮するまでには隨分骨折りであらう、内務省で若い技師を指導したやうに行くかさうかは、君此後の手腕に俟たねば判らぬが、市には君が曾て大阪府時代に愛護したと言はれてゐる技師連が隨分澤山のるらしい、併し夫等の人々は技術家としては珍らしい程世事に長てる、その代り専門の技術に就ては殆ど零だと言ふ定評もある位だ、君の賢明を以ては是等の人々の爲に燐てられさうな事は無いであらうが、技術事件の解決に方つて此連中の言に聽き、清水君等一派の純真技術家の言を輕視するやうな事があつたら、君は矢張り圓轉骨脱式の技術家たる誇を免れないのである。

大阪は何と言つても東京に次ぐ大都市である、或る意味から言ふと東京以上のこゝもある、従つて君の責任に屬する土木事業も隨分澤山ある筈だ、殊に事業の效果を現金式に打算する贊六連を相手にして、間接に利益を生む道路事業等を執行するのは一通りの苦勞ではあるまい、併しながら又其の贊六式のこゝろに妙味があつて仕易いこゝもある筈だ、さうか八百長式の技術家に誤られないやう自重して眞に技術の本領を發揮し、滑かな大阪市を造つて貰ひたい、又夫のが君の所謂新生面の開拓である。妄評を許し給へ。